



Lesson14 苦しみの意味



誰もが避けたいけど必ず経験しなければならないこと・・・それが苦しみです。あらゆる人、あらゆる宗教が苦しみについて考えてきました。「しかたがない」「こういう運命」「先祖のたたり」「ばち」因果応報、どうして自分だけがこんな目にあうのか、怒り、絶望、自分を責める、神を責める・・・。

苦しみに対して、実にさまざまな解釈、対応があります。聖書は苦しみについてどう教えているのでしょうか。



1. 苦しみの起源

苦しみは、この世界に最初から存在したわけではありません。神様は最初、苦しみのない世界を創造されました（創世記 1:31）。しかし、アダムとエバが神様に逆らって罪を犯したので、この世界に苦しみが生じました（創世記 3:16-19）。人の罪の結果、神様によって造られたすべての物が滅びの束縛に入れられ、苦しみのある世界となってしまいました（ローマ 8:20-21）。

2. 苦しみの意味

苦しみにはさまざまな意味があります。ここでは、主なものを挙げますが、一つの苦しみにいくつもの意味がありえます。

(1) 神に不従順な者へのさばき

自分の罪が原因で苦しみを受けなければならないことがあります。出エジプトの時のイスラエルの民や、神様に逆らったヨナなどがそうです。単に罰するのが、神様の目的ではありません。神様は愛であり義なるお方です。悔い改めて、神様に立ち返ることを期待しておられます。しかし、何度警告を受けても悔い改めない時、神様は滅ぼされることもあるので、神様を侮ってはなりません（ガラテヤ 6:7）。

(2) 自分のありのままの姿を知るため

苦しみは、自分のありのままの姿を知るよい機会となります。自分の弱さを見せられ、へりくだられます（申命記 8:2）。

(3) 神により頼む者となるため

多く人は順調な時は神様を求めません。苦しみに会い、自分の力でコントロールできない状況になって初めて自分の無力さを知り、神様を求めるようになります（Ⅱコリント 1:8-9）。

ただし、苦しみを経験した人すべての信仰が成長するわけではありません。苦しみを乗り越えただけでは、よけいに自分に自信を持ち、神様に信頼しなくなる場合もあります。苦しみの中で自分の過去をふり返り、軌道修正して神様との関係をより深くしていく人が成長できます。

(4) キリスト者であるために受ける苦しみ

私たちがキリストに従っていく時、苦難は思いがけないことではなく、あたりまえのこととして受け

とめられています（使徒 14:22、I ペテロ 4:12-16）。またキリストに従っていく時に受ける苦しみは、イエス様が受けた苦しみをいっしょに経験することになります（ピリピ 1:29、コロサイ 1:24）。

キリストは、自分を犠牲にして神と人に仕えることの模範を示してくださいました（I ペテロ 2:20-21）。初代教会はキリストのゆえにはずかしめを受けることを、真の弟子となったことのアかしとして、心から喜んでいます（使徒 5:41）。

(5) 聖化のため（イエス・キリストに似た者に変えられていくため）

私たちは苦みの経験を通して、神のおきて（正しいことと正しくないことの判断など）を学びます（詩篇 119:71）。私たちは、苦みを通して聖められます（I ペテロ 1:6-7、4:1-2）。苦みは、私たちに忍耐、練られた品性を生み出し、成長させます（ローマ 5:3-5、ヤコブ 1:2-4）。神様は私たちが神の子として訓練し、神の聖さにあずからせようとしています（ヘブル 12:5-11）。

(6) 苦みの中にいる人を慰めることができるため

私たちは苦みを経験することによって、苦みの中にいる人を慰めることができるようになります（II コリント 1:4-5）。

私たちは他の人の苦みの原因や理由をいろいろと解釈します。「今回の試練は、きっと〇〇さんが救われるために与えられたのじゃないかしら」「この苦しい経験を通して、きっと〇〇さんがもう一度神様に信頼するためじゃないかな」。そういった解釈はひょっとしたら当たっているかもしれませんが、苦みのただ中にいる方に対して、論理的に説明することよりも大切なのは、黙ったままでよいから共にいてあげることです。

まずその人の気持ちに共感することが大切です。そうすると少しずつ感情が慰められ、いやされていく中で、質問が変化していきます。「なぜ、私がこんな苦みにあわなければならないのか」というような怒り、自己非難から、「神様はこの苦みを通して私に何かを学ばせようとしておられる」、「これも神様からの恵みだ」というような神中心の視点へと変化していくのです。

3. 苦みの勝利は約束されている

私たちは苦みを避けて通ることはできませんが、感謝なことに苦みに打ち勝つことは約束されています。

(1) 耐えることのできない試練には会わせられない

神様は私たちが耐えることのできない苦みを与えることはされません（I コリント 10:13）。

(2) 勝利の約束といやし

イエス様は苦難のしもべとして誰よりも深い苦悩を経験され、それに勝利されました。ですから私たちの痛みを理解し、いやしてくださいます（ヨハネ 16:33、イザヤ 53:4-6）。

(3) どんな苦みも私たちがキリストから離すことはできない

私たちは苦みに負けそうになることがあるでしょう。負けているように感じることもあるかもしれませんが、必ずイエス様と同じように復活し、苦みにも勝利することが約束されています。すべての困難に勝利されたイエス・キリストが私たちの内にいてくださるのです（ローマ 8:35-39）。

(4) 新天新地において苦みはなくなる

苦みは永遠に存在するものではありません。イエス様が再び来られた後の新しい世界では、苦み

はなくなります（黙示21:3-4）。

4. 苦しみの解釈を超えて

私たちの人生には、祈っても容易に解決しない痛みもあります。そういう時は、そこに何か神様の深い目的があることを信頼しましょう。「隠されていることは、私たちの神、主のものである」（申命記29:29）。今は明らかにされていないことがあります。私たちの目には覆われていることがあるのです。天国に行ったら神様に聞いてみたいことを、祈りのノートに書いておいてもいいかもしれません。

原因や理由がわからなくても、無意味な痛みはありません。神様は、痛みを通して私たちをより大きな成長へ導いてくださいます。また、たとえ、自分なりに理由や意味がわかったと思っても、それが正しいかどうかわかりませんし、私たちに神様の計画がすべてわかるわけでもありません。私たちは人生経験が長くなるにつれて、過去の経験の解釈は変化していきます。ですから無理に痛みの原因や理由を探さなくてもよいと思います。大切なことは、たえず神様に信頼すること、神様に明け渡し委ねて従っていくことです。どんな痛みがあっても、共に祈りつつ乗り越えさせていただき、成長させていきましょう。

まとめ

私たちの人生には、必ず痛みがあります。どんな時にも、神様に信頼して、神様からの恵みを豊かにいただきましょう。

☆聖句

「私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。」（Ⅱコリント4:17）



考えてみよう

1. あなたは、痛みからどんなことを学んできましたか？